

第七十四回フォト句優秀作品（29年6月13日）



物理
の散歩道
（隆）

光芒や
ロマンと



惜春の吐息にゆらぐ吊灯籠（アキヤ）



トランプの大ほら口もいずれ骨（昌康）



足枝は大化の御代より身を助け (健夫)



宴の灯

川面にぎわす

舌鼓 (三春)

寸 評：

1) 光芒やロマンと物理の散歩道 池田 隆

白河市郊外の南湖での風景。厚い雲間からの光芒を撮り、**ロマンと物理の散歩道**と洒落た句をつけた。

2) 惜春の吐息に揺らぐ吊灯籠 中村 晃也

上野の美術館で開催された春日神社展でのスナップ。吊灯籠は**妾**を意味する隠語だと知ると句の意味が深いことが判る。

3) ほっといてすきなの日陰私たち 田中 みづえ

地表を覆っている十薬（どくだみ）を詠んだ。句はやや稚拙だが、新入会員としての健闘を称えたい。

4) トランプの大ほら口もいずれ骨 松田 昌康

あぐりと開いた大鮫の口からトランプ大統領の大ホラを連想した。

5) 足技は大化の御代より身を助け 下山 健夫

綺麗な衣装を身に付け優雅に蹴鞠を楽しむ動きのある風景は、背景の緑の林と相俟ってなかなかのもの。説明的な句に再考の余地があるが。

6) 宴の灯川面にぎわす舌鼓 三 春

南国の水上レストランは情緒があるが、写真も句も作者にしては平凡。



今月は大越さんの出題。軽井沢の骨董屋の店先だそうだ。

1) 赤提灯に寄って帰れば般若待つ 松田 昌康

家で待つ奥方を般若とは！画像の中の二つの主題を上手く捉えた。

2) 日が落ちて風吹き渡れば踊りだす 長尾 進一郎

お題写真の雰囲気に合わせて情緒的な句だ。画像中の題材には

触れずに雰囲気を出すことに成功している。

3) 売れぬまま軒に吊るされ恨めしい 清水 勝

いつも通り素直な句。ギャグも叙情も感じないが・・・。

4) ガラクタも家宝に化ける鑑定書 三 春

テレビのお宝鑑定団に影響されている。

5) 妖怪に暖簾分けして左前 三 春

何を言っているのかよく判らないが・・・。

6) 緑陰に老いの古傷踊りだす 新田 由紀子

十七文字の句より長い説明を聞かないと句意がわからない。

お題写真の焦点がはっきりせず、常連が苦吟し気の利いた句が乏しかった。

番外ではあるが、

ゴチャゴチャと何のことやら解りません 矢澤 正二

の句が本音のようです。